

リーグ戦をふりかえって

監督 田中俊明 (昭49)

昨シーズンも3年連続の7位という不本意な成績に終わりました。今年卒業する4年生にとっては大学生活の4年間で勝ゲームを数ゲームしか経験しておらず、悔いを残しての卒業となることと思ひ、監督としての責任を痛感しています。ただこれからの社会生活の中ではこの経験を生かしてそれぞれの道で活躍してほしいと願っています。

さてリーグ初戦は優勝した近畿大と対戦し力の差は如何ともしがたく大敗を喫しました。しかしながら内容的には点数ほどの差もなく、第2戦以後は立直るものと期待がもてたのですが、むしろ精神的に受けたダメージの方が大きく、それ以後の試合も接戦で敗れることが続きました。この間、大阪市大戦でキャプテンの天知君が足を骨折するというアクシデントも起き、戦力ダウン以上の影響も少なくなかったと思われまます。

最近のBリーグの試合日程は前年度の成績を参考に決めてられます。つまり前年1位と最下位、前年2位と7位が初戦で対戦し、対戦が進むごとに成績の近いチームと当ることになっています。したがってここ数年下位に低迷している神戸大にとっては必ず初戦で有力チームと対戦し、思うように調子の波に乗れないといった悪循環が続いています。事実神戸大と初戦で対戦したチームはここ2年間優勝しており、今後Aリーグに復活するためにはある程度長期的な計画を立てる必要があると思ひます。

技術的にみた反省点を挙げると、第1にスクラムの力不足が考えられます。これはここ数年間不振の最大の原因ではないかと思ひます。全ての攻撃、防御の基点であるスクラムで相手を圧倒する力がない限りリーグ戦を勝ち抜くことは非常に困難で、これまで対等に組めることを目標としてきたことに大きな誤りがあったと反省します。第2にフォワード、バックスとも縦へのスピードに不足していることです。これは得点力の低さにつながり、リーグ戦の総得点が79点であるということが明確に示しています。個々の縦へのスピードが全体としての展開を有効にするものであるとの認識に立って57年度の課題にしたいと思ひます。第3にはゲーム展開のまずさが目立ったことが挙げられます。ゲームのポイントでミスが続出するため接戦に勝てないことが何試合もありました。

悪い点ばかりを述べてきましたが今年に向けて期待できることもあります。それはフォワードの集散が良くなりボール支配に対する力がついたこと、バックスに展開力がついてきたこと等です。既に新チームによる練習も始まっていますが、今

年こそ上位に喰い込めるよう前述の反省点をふまえて頑張ってくれるものと期待しています。来年の報告は胸を張れるものであるよう私も最大の努力を払うつもりですが、先輩諸兄のご援助もよろしくお願ひします。

主将の任務を終えて

天知吾郎 (昭57)

主将の任務を終えてと言っても、私自身、リーグ戦第2戦で、足を骨折し以後シーズン終了まで、松葉杖の生活を余儀なくされたので一番重要な時期にリーダーシップをとることができずに終わってしまった。しかしその間、初めてラグビーをグラウンドの外から見ることができたので、そのわずかな経験をもとに後輩諸君に忠告しておきたい。

まず第1にもっと外へ出て、いろいろなことをもっと研究してほしいということ。これは技術面、運営面等すべての点についてである。特に技術面では新しい技術やプレー等自分達に必要と思うものは積極的に取り入れていってほしい。また試合観戦、講習会参加などチームとして積極的であってほしいと思ひます。

次に、シーズン中ともなると“次の試合のための練習”が多くなるが、その際相手が何を仕掛けた時にどう対応するかを研究することも重要であるが、逆にこちらが何を仕掛けていくかということがもっと研究されなければならなかったと思ひます。いつも試合展開上、こちらが後手後手とまわらざるを得なかったのはそうしたことも原因の1つであったと思ひます。

またさらに大切なことは、自分達に迷いが生じた時にもどるべき土台をしっかりと持っておくことである。逆に言えば、それがなくては相手に応じた作戦など練っても無駄であろう。

最後に精神面の問題であるが、これはもう個人レベルの問題ではなくて、チーム運営上の制度として、厳しさを植えつけていかななくてはならないと思ひます。特に4年生は、やる気のない者を試合はおろか、練習からさえも切り捨てていくぐらいの態度で臨んでもらいたい。

以上自分のできなかったことばかりならべたようですが、後輩諸君に少しでも参考になればと思ひます。頑張って強いチームを造って下さい。

凌霜ラガー総会予告

昭和57年度凌霜ラガー総会を下記の通り開催致しますので会員各位におかれましては、ご多忙とは思ひますが万障お繰り合せの上ご出席下さいませうお願ひ致します。

日時 昭和57年7月5日(月)18時
場所 大阪凌霜クラブ 会費 3,000円

今シーズンの抱負

主将 河東 秀 樹

この3年間、続けてリーグとの入れ替え戦に出場しなければならなかった我々が、先づ考えねばならないことは、この低迷から脱け出すことだと思われます。他のチームと比較して体力的に劣るとか、技術が未熟であるとかいう点はもちろん考えなければならぬし、克服していかなければなりません。そしてその上で今シーズンどうしても我々が身につけなければならないのは自信だと思ひます。もちろんそれは根拠のない出鱈目なものではなく、練習と実績によって作り上げられたものでなければなりません。今シーズンの1年間に渡って何とか自信を植えつけて行き、そして来年以後へつなげて行ければと思ひます。

昨年の練習計画とその実行は基本的に誤ったものではなかったと思ひますから今シーズンもそれに沿った形で練習を進めて行きたいと思ひます。唯、今シーズンそれに付け加えたいのは、故障者を出さない様にしたいことと、プレーに幅を持たせたい事です。昨年、大量に故障者が出て満足に練習出来ない時期がありましたのでこの点には特に注意したいと思ひます。また、プレーに幅を持たせたいというのは型にはまったプレーだけをしていては、味方が安心してそれを出来るかわりに相手に恐怖感を抱かせること、嫌だと思わせることが勝利につながると思ひます。

最初に述べました通り、我々はこの低迷から脱け出さなくてはなりません。そのためにもOB諸先輩の御援助と、適切な御指導をよろしく願ひいたします。

対一橋大学定期戦を観て

原 口 重 孝 (昭43)

卒業して13年、初めて見る現役の試合でした。場所はあの秩父宮。先週までは早慶明が血と汗を流した所。当日の観客はなんと数10名。結果は少差で負けましたが、我が神戸大はタックルはピンッと決めるし、ひたむきさが感じられる試合でした。「結構うまいのになんで2部の下をウロウロしてるのやろ。」「わしらの頃はもっと当りが強かったぜ、ちょっとひ弱と違うか。」とかOB連が好き勝手に楽しく観戦しました。試合後のミーティングで一橋大の選手達があこがれの秩父宮ラグビー場で試合が出来た事に対する喜びを語っているのが印象的でした。いつの日か神戸大が花園ラグビー場で同志社大、天理大、京都大と戦う日を楽しみに待っています。

OB: 現役戦予告

57年度のOB:現役戦を例年通り4月29日下記の通り行います。昨年は30名を越すOBが集り、ゲームを楽しみました。本年も多数出場されるようお願いいたします。またゲーム後懇親会を予定しておりますので新しい現役メンバーに励ましの言葉

をかけてやって下さい。

日時 昭和57年4月29日 14時K.O.

場所 六甲台グラウンド 会費 1,000円

昭和56年度 現役公式戦戦績

田中俊明(昭49) 天知吾郎(昭57)

関西大学ラグビーリーグ戦

- 9.13 神戸大 10 { $\begin{matrix} 0-18 \\ 10-28 \end{matrix}$ } 46 近畿大
- 9.20 神戸大 4 { $\begin{matrix} 4-4 \\ 0-3 \end{matrix}$ } 7 大阪市大 (兼三商大戦)
- 10.25 神戸大 6 { $\begin{matrix} 0-6 \\ 6-4 \end{matrix}$ } 10 関学大
- 11. 1 神戸大 7 { $\begin{matrix} 7-14 \\ 0-10 \end{matrix}$ } 24 大商大
- 11. 8 神戸大 10 { $\begin{matrix} 0-6 \\ 10-7 \end{matrix}$ } 13 甲南大
- 11.15 神戸大 10 { $\begin{matrix} 0-13 \\ 10-16 \end{matrix}$ } 29 大教大
- 11.23 神戸大 31 { $\begin{matrix} 12-0 \\ 19-6 \end{matrix}$ } 6 大阪大

B, Cリーグ入れ替戦

- 12.12 神戸大 27 { $\begin{matrix} 13-0 \\ 14-0 \end{matrix}$ } 0 和歌山大

この結果Bリーグに残留が決定。

近畿大がAリーグに昇格、関西大がBリーグに、大阪大がCリーグに落ち大工大がBリーグに昇格しました。

三商大戦

- 12.14 神戸大 0 { $\begin{matrix} 0-0 \\ 0-7 \end{matrix}$ } 7 一ツ橋大 (於秩父宮)

対大阪市大戦は上記を参照。

'81年凌霜ラガー秋のコンペ

永 井 長 造 (昭31)

56年12月5日(土)於能勢ガントリークラブ野間憲三氏(昭32)のご好意で開催できました。当日は好天に恵まれ、愉快にプレーができて、幹事としてもホッと致しました。

ただ師走のため、所要による欠席多く、参加は7名になったのが残念。

次回は稲岡正信(昭16)先輩のご好意により、7月24日(土)西宮高原ゴルフ場にて開催致しますので奮ってご参加下さい。

戦績、寸評次の通り

- 優勝 木下幹雄(昭29) NET 74.1
- 2位 能勢一朗(昭16) " 75.3
- 3位 荒谷 登(昭31) " 77.6 DC賞
- 野間憲三(昭32) " 77.7
- 池田康一(昭27) " 83.1 NP賞
- 小林恒夫(昭31) " 85.7
- 永井長造(昭31) " 88.5

木下氏お得意のフックボールがコースに合ったのか好成績。また能勢氏は手がたく2位はお見事。シングルの荒谷氏はアウトは荒れ気味だったが、

インを38に締めて3位はさすが。野間氏、地主の利を生かして健闘するもハンデ9掛けがたたり惜しくも等外。

賞品は師走の事として正月用品としたが、存外好評と幹事は信じています。

退場雑感

太田 奎 吾 (昭27)

今年正月のラグビーファン最大の話題は、1月2日の同志社・明治戦での退場問題だった。退場という厳しい事態をはじめ見た人も多かったと思う。大方の意見は次の3つに大別された。

1. 退場の前に警告すべきでないか。
2. あれだけのビッグマッチの興味を殺ぐことはなかった。
3. 関東の笛は関西のチームに厳しすぎる。

事態は後半17分頃同志社の右ゴール前で起きた。レフリーが笛を吹きラックが解けたとき、レフリーが退場のジェスチャーを示した。場所が場所だけに、何が起きたか誰にも解らなかつたに違いない。

プレーヤーの退場に当る行為については、競技規則第26条「不正なプレー FOUL PLAY」にまとめられている。私は高森レフリーの報告書を読んでいないが、次の2つの規則が適用されたものと思う。

第26条 (3) 不行跡、危険なプレー

(h) 競技を停止している間に、相手側のプレーヤーに対し(中略)不行跡として罰すべきことをすること。

(b) 故意に(中略)地上に横たわっている相手側プレーヤーを踏みつけること。

そして、これに対する罰は「退場を命じるか、またはその反則を繰り返した場合には退場させることを警告する」となっている。

以上に基づいて高森レフリーの処置は正しい。よほどの不行跡であったのであろう。「レフリーは唯一、事実の判定者である。」(第6条)レフリーが一番近い所で見てるのであるし、その人に委したのだから異論をはさむべきではない。その意味で試合後の同志社側のコメントはさわやかであった。

それまでの緊迫した空気が一変し、興味が殺がれたことは歪めない。しかしその責任はプレーヤーが負うべきであらう。レフリーはマッチの演出者でもあるが、事実の判定をまげてまでそうすべきではない。

ラグビーはコモンセンスで成り立つスポーツだ。レフリー ソサイアティでは、笛の統一を図っているが、レフリーに個性があっても当然である。一流のプレーヤーともなれば笛に合わせたプレーができなくてははいけない。

レフリーは、社会的に高い地位にあるものである。このことについては、協会役員にも自覚を促したい。レフリーをしてやろうという人は奇抜な人なのだ。レフリーを大切にしよう。

とにかくこの事件は、プレーヤーにも、協会にも、ラグビーファンにも一つの警告だった。同志社ファンの一員として今シーズン同志社の一層の活躍を期待してやまない。

昭和56年度凌霜ラグー会費納入者氏名

脇 英太郎 (昭44)

昭和56年度は下記の方々に会費を納入していただきました。尚出稿後の御送金につきましては、お名前が洩れていますが、悪しからず御了承下さい。(敬称略)

昭和11年	杉山			
昭和12年	菊谷	田中	水田	
昭和13年	小池	渡辺		
昭和16年	五島	稲岡	伊吹	能勢
昭和17年	工藤			
昭和19年	田中			
昭和20年	金田			
昭和22年	森田			
昭和23年	吉川			
昭和24年	羽田	伊藤		
昭和26年	柏木			
昭和27年	太田	山口	池田	藤井 平木
昭和28年	河野	村上	坂口	
昭和29年	子安	木下		
昭和30年	坂本	赤崎	井沢	名取 横田
昭和31年	松本	小林	磐井	荒谷 永井
	西松	高塚		
昭和32年	野間	安中	小川	
昭和33年	野川	岸原	浜田	山下 竹村
昭和34年	松村	戸田	野村	塩谷
昭和35年	多々見	河島		
昭和36年	松下			
昭和37年	平井	橋本	千歳	鍵野
昭和38年	長谷川	堀本	本領	
昭和39年	松下	小玉	野村	
昭和40年	福田			
昭和41年	谷口			
昭和42年	佐々木	有木	向井	岩崎 永峰
昭和43年	室賀	島岡	矢野	葉室 田畑
昭和44年	野中	用水原	脇	
昭和45年	和田	清水	北岡	
昭和46年	鷹尾			
昭和48年	渡部			
昭和49年	田中			
昭和50年	吉沢	中野		
昭和52年	中崎	山形		
昭和53年	明慶	浜田	磯江	田中 山之端
昭和54年	西本			
昭和55年	池内	板垣	岸脇	北嶋
昭和56年	本間	藤野	浜名	白川

計 報

村上武雄様(昭17)がご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

母校ラグビー部草創期の思い出

今里 麟次郎 (大15)

凌霜ラガーのルーツを探ると、陸上運動部(當時は競技部と云わなかった)の分身として生れた事が判る。陸上運動部は大正5年卒業の、本年2月目出度く満88才の米寿を迎えられ、御健在の、北村栄二郎氏が始祖であり、斯界黎明時代に一世の名スプリンターとして数々の日本最高記録を樹立され、大正2年を皮切りに同6年迄の間に日本代表選手としても活躍され、その間多くの後輩の後継者の育成にも尽力せられ、大正11年頃迄数年にわたる陸上黄金時代を築き上げた原動力の功労者であるが。此の光輝ある陸上運動部も私の頃(大正13,4年)には1,2の選手を除き全般に不振に陥り、殊に冬期には練習をサボル連中が多くなったので、その打開策に本来冬のスポーツ、ラグビーを始める事にした。そのまゝから京一商出身の下里巳之助先輩(関西凌霜ラグビーのメンバー)等がラグビーを始めたいと努力されていたが、まとまらなかった様だ。その頃神戸は外人クラブとのラグビー交流が盛んにもかかわらず、サッカーに押されてラグビーをやる学校は殆んどなかったので、関西ではラグビーは京都と云う事になる。京都の中学時代から之に馴んでいた私と、唯一無二の親友であった五種競技の雄、故西川浩一君と相計り、英語に強い彼の英書によるルールと戦法の解説研究に加え、その頃高校ながらラグビー界に君臨していた三高の名TBの望月信次君(私の中学時代の一番の親友)のコーチを受け、大正12年の新春早々母校ラグビー部は正式に発足した。取敢ず練習のため大毎主催の第7回ラグビー大会高専の部に参加して、同志社高商と対戦したが、もとより勝目はなかったが、その時の選手の構成は10人迄陸上運動部の選手で、初代マネージャーも私がやった。そして大正14年早春に迎えた最初の本式対抗戦は、当時慶応大を破り日本一と云われた早大に惜敗して気をよくしている東京商大(現一橋大)との第1回戦であった。此の強敵と神戸遊園地で対戦、奮戦の末、遂に0:0の引き分けとしてこの緒戦を飾った事は、遊園地の周囲を埋め尽くした大観衆の声援と共に、その後遂に見る事のなかったであろう驚異のシーンではなかったか……と、思い出は今を心にしみついている。その時のメンバーも陸上運動部出身が10名であった。2年目は西川浩一君を主将とし、陸上運動部の主将の私は引続きマネージャーとしてサポートすることになり、結成早々の部としてはおおいに将来を期待されたものだった。

結成当時は最上級生ではなかったが、西川浩一の研究と強気、私のマネージャーとしてのまとめがなければ、この時期にまだ部の結成は出来なかったと自負している。但し私としては陸上運動部の強化が第1で、冬期訓練の一助とする積りが、

練習が面白くて張り合いもあるラグビーに陸上運動部を離れて移るものが続出し、ひさしを貸して、母屋を取られた形でその後陸上運動部の弱体化に影響した事は歪めず、何とも皮肉な結末に責任を感じながらも凌霜ラガーの生みの親の一人として喜びと誇りを感じている。

現役ラグビー部の諸君よ!いつの日にか日本一の覇者となられんことを永い目で見守っていますぞ!

57年度 現役役員

- 主将 河東 秀樹 (済4)
- 副将 中瀬古 哲 (教4)
- 主務 山中 光信 (管4)
- 副務 村田 治彦 (工3)

57年 卒業生就職先

- 天知 吾郎 (理) 兵庫県立小野高校教員
- 川北登志雄 (管) トヨタ自動車
- 坂下 清信 (工) 日本橋梁
- 川端 倫人 (法) サントリー
- 有明 志郎 (教) 吹田市小学校教員
- 中本 和雄 (工) 日建設計
- 野村 靖 (農) ダイエー
- 福田 良仁 (管) 帝人
- 松井 亮 (工) 横河工事
- 千代田真理 (文) 大阪府高校教員

会費納入のお願い

56年度の会費の入金状況は別記の通りですが、今後の事業の遂行に支障を来す恐れがありますのでご協力下さいますようお願いいたします。

また、57年度の会費につきましてもよろしくお願ひ致します。

1. 年会費 5,000円
2. 会費振込先
 - 住友銀行 天満橋支店
普通預金 №957978 凌霜ラガークラブ
 - 三和銀行 大阪駅前支店
普通預金 №27557 凌霜ラガークラブ

運営委員会報告

山下 弘 (昭33)

昭和57年3月15日 於大阪凌霜クラブ

1. 凌霜ラガー通信の発行について
2. 次回ゴルフコンペについて
3. 4.29OB: 現役戦について
4. 夏期合宿の応援について
5. 予算執行状況報告
6. 会費徴収状況報告と徴集方法について
7. 56年度現役の戦績報告

の討議と報告があった。
出席者 太田(27) 井沢(30) 西松、永井(31)
竹村、山下(33) 平井(37) 脇(44) 明慶(53)
河東、山中、國本、斉藤(現役)

寄稿のお願い

今回は西松先輩のご尽力と、ご寄稿いただきました諸先輩方のご協力により短期間にまとめることができました。お礼申し上げますと共に今後とも諸兄のご協力をお願い致します。
編集部では皆様方の寄稿をお待ちしております。“ラグビーの思い出”“海外での経験”等どんな事でも結構です、400字詰原稿用紙に3~4枚程度でお願いします。投稿先は下記へ。

〒545 大阪市阿倍野区文の里3-14-8-304

山下 弘